



2013年9月27日

スバル レガシィ、アウトバック(EyeSight 装着車)が 米国 IIHS の衝突回避性能評価で最高評価である「superior」を獲得 ～ 「superior」評価獲得の中型乗用車・SUV クラス中、唯一の最高ポイント ～

富士重工業の米国販売会社スバル オブ アメリカ インク*1 は、スバル レガシィ、アウトバック(共に先進運転支援システム「EyeSight」を装着した 2013 年型、2014 年型モデル)が、IIHS*2(道路安全保険協会)が中型乗用車・SUV 向けに初めて実施した前面衝突予防性能を評価する新試験プログラムにおいて、最高評価の「superior」を獲得したと発表しました。また、「superior」評価を獲得した車種中、レガシィとアウトバックは唯一最高となる 6 ポイントを獲得しました。

EyeSight は、世界で初めてステレオカメラのみで、歩行者、自転車をも対象としたプリクラッシュセーフティ機能や全車速追従クルーズコントロール機能を実現したシステムで、2008 年 5 月の日本での発売以来、お客様から高い評価をいただけてきました。今回の IIHS による評価においては、自動ブレーキによって車両を減速・停止させ、前面衝突の回避または衝突被害の軽減を図る EyeSight の「プリクラッシュブレーキ」の性能が高く評価されました。

本発表を受け、スバル オブ アメリカのトーマス ドール社長兼 COO は「われわれのお客様は、スバル車が提供する安全性を信頼しています。モデルラインアップ全車が獲得した 2013 IIHS トップセーフティピックと共に、レガシィとアウトバックが受けた 2013 トップセーフティピック+と今回の前面衝突予防性能への高い評価は、スバルがお客様の信頼に応えていることを更に証明するものです。」とコメントしました。

IIHS は新試験プログラムにおいて、前面衝突予防システムをオプションまたは標準装備する車種について、自動ブレーキ機能の有無や同機能の検証試験により、衝突回避性能を「superior」、「advanced」、「basic」の三段階で評価します。試験では、自動車の後部を模し、かつ静止したターゲットに向けてエンジニアが車両を走らせ(試験速度: 約 20km/h、約 40km/h)、自動ブレーキによる減速性能を検証します。協会基準の最高評価である「superior」の認定を受けるには、自動ブレーキ試験で 4～5 ポイントを獲得し、前面衝突警報付車両への 1 ポイントの加算を含め、総合 5 ポイント以上(最高 6 ポイント)の獲得が必要となります。

富士重工業は、ブランドステートメントである“Confidence in Motion”を通じて、スバルならではの「安心と愉しさ」の提案を掲げています。この「安心と愉しさ」を支える重要な要素である「安全」を、ALL-AROUND SAFETY の考え方の基に、アクティブセーフティ、パッシブセーフティ、プリクラッシュセーフティの各技術進化により実現していきます。

*1 Subaru of America, Inc.: ニュージャージー州チェリーヒル

*2 Insurance Institute for Highway Safety: 米国保険業界の非営利団体